美徳の心理的アプローチ：Virtues Approach を取り入れた「マタニティークラス」の編成とその効果について

A Psychological Approach to Virtue: Organization and Effects of a Maternity Class with a Virtues Approach

浦山　晶美 Akimi Urayama

抄録

不適切な養育態度や虐待は年々増加し，それらを放置するならば次世代に伝達されます。また，子どもは不適切な養育態度を継続して受けることによって自尊心が欠如し，認知の仕方が歪んできます。これは，日常生活における美徳の価値観に基づいた選択意志及び実践行動等の魂の働きにベールをかけるような影響を与えると考えられます。それ故に，子どもが生まれる前に養育者を対象とした心理的なサポートが重要です。これまでの研究から，育児不安と虐待との間には関連性があり，また母親の育児不安と自己効力感，育児の肯定感と夫婦関係，産後うつ病と自尊感情等の関連性が明らかになってきました。そこで，本研究は，早期育児支援を目的に，妊娠中から心理的アプローチを取り入れたマタニティークラスを編成し，その効果を検証することにしました。介入群は従来の保健指導に加えて美徳･教育プログラムの方法を取り入れた心理的アプローチを，対照群には従来の保健指導のみを取り入れたマタニティークラスを編成しその効果を夫婦関係満足･自尊感情･特性的自己効力感の3尺度で判定しました。結果は，介入群においてクラス受講前よりも受講後の方が自尊感情･特性的自己効力感の尺度得点が有意に高くなりました。しかし，対照群では，3尺度いずれもクラス受講前後において有意な差はみられませんでした。結果から，Virtues Approach を取り入れたマタニティークラスは，母親の心理的アプローチとして有効であると考えられ，継続支援によって心の安定を図り，美徳に基づいた認知の仕方･行動は養育者，特に母親にとって育児の内容にポジィティブな影響を及ぼすのではないかと推測されました。

キーワード：Virtues Approach，マタニティークラス，夫婦関係満足，自尊感情，特性的自己効力感.

The number of reported cases about the difficulty in raising children and/or child abuse has been increasing every year and it is also known that the quality of care experienced by a child significantly influences the next generation. Poor attitudes and inadequate attention to a child on a continuous basis can result in alternation

of recognition and lack of self-esteem、 and becomes a veil over the soul's influence in daily life such as lack of will、 inability to take action in accordance with the virtues and values. Therefore、 it is critical to provide psycho-social support for parents during the pregnancy and before a child is born. There is established evidence that there is a clear relationship between a mother's anxiety and lack of ability in raising the child、 her sense of self efficacy and the quality of child care provided、 to the quality of the marital relationship、 maternal depression and self esteem. The aim of this research was to develop maternity classes which would include provision of psycho-social support during pregnancy and to test the effectiveness of these classes in terms of the above mentioned relationship. The intervention group used standard maternity class materials that were modified and supplemented with the virtues approach and the control group used the standard maternity class materials. The response to these classes was measured using proven and valid Marital Quality、 Self-Esteem、 and Self-Efficacy scales. The results: Generalized Self-Efficacy and Self-Esteem scales showed significant increase after the class in the intervention group. In the control group、 there was no significant difference before and after、 in all 3 scales. Therefore、 the modified maternity class demonstrated an effective psycho-social approach that could contribute to the mental well being of the mother、 and this suggests that a similar virtues based support、 if provided on an ongoing basis、 could positively influence the quality of child care by parents especially the mothers.

Keywords：Virtues Approach、 Maternity Classes、 Marital Quality、 Self-Esteem、 Self-Efficacy

緒言

> 「われ汝を豊かに創れるに，何故汝自ら貧しくするや。気高くわれ汝を造れるに，何故汝自ら卑しくするや。知識の精華もてわれ汝を生ぜしに，汝何故にわれより外の者に教化を求むるや。愛の粘土もてわれ汝を造りしに，汝何故に他のものに没頭するや。汝の眼を汝自らに向けよ。さらば汝，汝のうちに威光に輝き力強く自存しつつあるわれを見出さん」[1)]

これを解釈するならば，本来神は人間を神の美を反映するように創造されたのであり，そして，神が定めた地位に到達するように日々美徳の実践により魂を清めなければならない、と言うことができると考えられます。バハイの教えでは，魂は思考の源泉であり，その働きは，想像力・思考力・理解力・記憶力・モラル（美徳の選択）等が挙げられますが [2)]，不適切な養育態度や虐待を受けた場合は，ものごとの認知の仕方にネガティブな影響を及ぼし，本来人間に備わって

いる潜在的な魂の機能に基づいた行動が発揮し難いという状態をつくり出します。現代社会では虐待が年々増加し，厚生労働省の報告によると平成 20 年度の全国の児童相談所に寄せられた虐待の相談処理件数は 42、664 件で，平成 7 年頃から急上昇し始め，ここ 10 年間において 10 倍になり，子どもは悲惨な家庭･社会環境で育てられていることが報告されています [3)]。しかしながら，これらの数値はほんの氷山の一角に過ぎず，現実的には普通の家庭内においても不適切な養育態度は年々増加傾向にあります [4)]。

心理学で著名なる J.Bowlby は愛着理論を提唱しました [5)]。この愛着理論では，人間は乳幼児期から重要な他者に対する接触，接近や社会的な相互作用をもとに，安心感を得たいという欲求がありますが，子どもへの不適切な養育態度や虐待が継続的にされることによって，愛着が歪み，ものごとの認知が歪んでくることを説明しています。子どもは，安定した母子相互作用の中から，母子間に特別な愛情の絆（bonds）が形成され，乳幼児はこの絆を安全基地として，外界の環境や人とのやり取りの仕方を学んでいきます。親子間の相互交流の反復により，子どもの心のなかに「内的ワーキングモデル（Internal working model：IWM と略す）」という内的表象（イメージ）が育っていきます。IWM とは，乳幼児が学習過程で発達させていく内的表象で，遭遇する出来事をどのように評価，解釈し，どのように未来を予測して，それに対して自分がどのように行動を計画していけばよいかを導く認知機能です 6)。養育者との間に安定した愛着関係を形成した子どもは，自分を愛してくれる親，そして養護されるに値する自分という IWM を形成します。一方，不適切な養育態度等により不安定な愛着関係を形成した子どもは，愛してくれず応答的でない親，そして養護されるに値しない自分という IWM を形成します。IWM は 2，3 歳頃までに形成され，それはその後の対人関係への期待の原型となり，生涯を通じて比較的変化することなく持続する傾向があると言われています。そして親から虐待や拒絶をうけた子どもは愛着体験が歪み不安定な IWM を形成するため，それが修正されないまま親になった場合，子どもに対して拒絶的な行動をとる可能性が高くなると考えられ，不適切な養育態度は IWM を介して次世代に受け継がれていくという考えが現代の心理学の見解です [6),7),8),9),10),11)]。このように虐待の原因は多くの要因が絡みあって発生しますが，その中でも親自身の被養育体験が重要な要因として考えられ，虐待が次世代に伝達されるのは精神病理ではなく愛着の質であるとの見方が一般的になってきました [12),13),14),15),16)]。そして，歪んだ認知の仕方は魂の機能の想像力･思考力･理解力･記憶力･モラルの選択等の内的ビジョンのベールとなり，魂の機能が十分に発揮し難い状況をつくり出すと考えられます。

現代社会の子育ては多くの難問を抱えています。具体的には，「健やか親子 21」で報告されていますように，妊娠，育児に関する課題は多く，「産後うつ病の発生率」「子育てに自信が持てない母親の割合」「育児について相談相手がいない母親の割合」等が増加しています [17)]。これらの要因は母親の育児ストレスとなり，その感情が不適切な養育行動として表出され，子どもが出すサインに適切に応答できず不適切な養育態度から虐待へと繋がっていきます。しかし，継続的な不適切な養育態度は，子どもの自尊心を傷つけ健康な発達に阻害を及ぼします。また，虐待の定義は難しいのですが，「子どもが健全に育つことを妨げるような状態」とするならば不適切な養育態度も虐待の一部であると考えることができます。

最近の研究から，育児不安や不適切な養育態度は，養育者の自尊感情の低さや育児ストレスの高さからもたらされる認知の歪み（被害的認知）が先行要因となることが分かってきました

[18,19]。また，夫婦関係が母親の育児態度に影響を及ぼすことや [20]，自己効力感が高いことが育児ストレスや育児不安，産後うつ病を軽減させること [21]，自尊感情が高いことと育児適応には関連性があることが分かってきました [22]。そして，親の養育態度は子どもの成長過程に影響し，思春期保健の問題，例えば心身症，引きこもり，暴力等は，乳幼児期の発達段階における体験の質に影響を受けていることが少しずつ明らかになっています [23]。これらのことから，父親からのサポートを得ることを含めた，早期支援体制が重要であるとの認識が高まっています。そして，不適切な養育態度や虐待等はそのままで放置するならば，さらに悪循環するかのように次世代に伝達され，その結果人間の資質はますます衰えていくと考えられます。それ故に子どもが生まれる前の妊娠中から養育者を対象とした心理的サポートが重要となります。

そこで本研究は，心理的サポートの内容を織り込んで，自尊感情・夫婦関係満足度・特性的自己効力感に影響を及ぼすようなマタニティークラスを編成・実践し，その効果を明らかにすることを目的としました。マタニティークラスには心理アプローチとして，Virtues Project（以後 V.P.と略す）を取り入れました。世界的にも家庭内の虐待が増加し子どもの人格形成における家族そのものが危機的状態を深めている現状から，1994 年に国連で「国際家族年」が提案され，V.P.はその会議で，最優秀モデル・プログラムとして選出され，日本語で V.P.は「美徳・教育プログラム」と訳されています [24]。V.P.は，1991 年に Linda Kavelin-Popov，Dan Popov，John Kavelin，によって構成され，具体的には「表 1」に示した行動内容を生活の中で実践できることを目的としており，現在，カナダを拠点にして 90 カ国に紹介され，学校・実業界・カウンセリング等の分野で活用されています。V.P.は人間的な資質の発達を支援することによって，認知の仕方に影響を及ぼすことから，自尊感情や人間関係（夫婦関係も含む）への改善等が期待できると考えられています。日本の中学校でも，この方法を本格的に学校教育の中に取り入れたところがあり，生徒の自尊感情が向上したという報告があります [25]。

本研究では，この V.P.の原理と実践方法を妊娠に関する保健指導の内容と共にマタニティークラスの中に取り入れて構成しました。なお，本研究において，V.P.の理念，原理や実践方法を対象に応じて一部取り入れて実践することを Virtues Approach（以後 V.A.と略す）といいます。

研究仮説は「V.A.を取り入れ，かつ妊娠に関する保健指導を実施することにより従来の妊娠に関する保健指導だけを実施するよりも，マタニティークラス受講後には夫婦関係満足・自尊感情・特性的自己効力感の尺度得点は上がる」としました。そして，妊娠時期から美徳についての意識を高めることにより，潜在能力に光があてられ，魂の発達阻害因子（世俗的な風習・環境・不適切な養育態度・虐待等）の作用を減少させることが期待できると考えられます。

研究方法

研究デザイン

研究デザインは無作為割り付けでない介入研究で，介入群（保健指導に V.A.を追加したマタニティークラスを実施する群）と対照群（保健指導だけによるマタニティークラスを実施する群）の 2 群比較とします。

研究対象者と調査期間

研究依頼施設で健診を受けている妊婦を対象に，調査を 2007 年 7 月から 2008 年 7 月まで実施しました。調査の流れを「図1」に示しました。

調査全体の流れ

研究依頼施設の受付にポスターを掲示して参加希望者を募集しました。同施設において，介入群と対照群のそれぞれのマタニティークラスの開催時期をずらして別々に実施し，そのことによって参加者の選択するクラスが1つのみという状況を設定しました。また，介入群では従来の保健指導に加えて V.A.を取り入れたマタニティークラスに参加してもらい，対照群には従来の保健指導のマタニティークラスに参加してもらいました。

データの収集方法

参加者それぞれに対して，1 回目（初回時のみ）のマタニティークラス受講前と受講後に調査票に記入してもいました。同じ人が 2 回，3 回と出席しても調査票は配布せず，同一個人からは1回（受講前後）だけ調査票を回収しました。

調査項目

調査票の内容は，年齢，結婚後年数，仕事の有無，妊娠週数及び妊娠中の異常の有無、産後実家に戻るか否か等です。使用した尺度は，夫婦関係満足 [26]，自尊感情 [27]，特性的自己効力感 [28] および，意見感想です。それぞれの尺度は主成分分析，構成概念の因子的妥当性は確認されています。なお，自己効力感には 2 つの水準があり，1 つは結果を出すために具体的な課題や場面の行動に影響を及ぼすような自己効力感と，もう 1 つは，具体的な個々の課題や状況に依存せずに，一般化した日常場面における行動や認知に関する自己効力感です。後者の構成概念は「行動を起こす意志」「行動を完了しようとする意志」「逆境における忍耐」です。本研究の V.A.の効果は，主に認知に関する変化が予測できるため特性的自己効力感尺度を使用しました。

分析方法

1）2 群の比較可能性の検討：介入効果は，3 つの尺度得点で判定しました。介入効果の分析に先立って対象者の属性が効果のバイアスになっていないかを確認する必要があります。すなわち，2 群の属性の比較のため，量的変数に関しては分布の特徴を確認した上で t 検定を，質的変数に関しては χ^2 検定を実施しました。

2）介入効果：2 群間におけるマタニティークラス受講の効果は，それぞれの群における受講前後の尺度得点の差（＝受講後得点－受講前得点）を求め，その分布を確認した上で対応のある t 検定を実施しました。

解析には Microsoft Excel と SPSS16 for Windows を用い，有意水準は 5%（両側検定）としました。

パイロットスタディー

介入群のマタニティークラスは V.P.の説明と依頼施設が従来実施していた保健指導の内容を同時に実施するため 4 回編成としました。対照群のマタニティークラスは従来から研究依頼施設が実施していたものを実施しました。効果的なクラスを運営するために，会場の広さに合わせて 1 回の学級参加人数を 10 人程度としました。

研究者は，介入群用に編成したマタニティークラスを試験的に実施しました。研究依頼施設の受付に介入群用のプログラムのポスターを掲示し参加希望者を募集しました。当初の予定では，対象者には参加前に調査票を記入してもらい，その全ての回に出席した後にもう一度調査票を記入してもらう予定でした。しかし，必ずしも全てに参加できない者がかなり出ることが予測されました。そこで，対象者にとって初回のマタニティークラスに参加した時に，受講前と後に調査票を配布しました。そのため全てのクラスにシェアリングサークル（以後 Sharing Circle を S.C.と略す）を導入し，V.A.の条件を統一しました。そして，毎回 V.P.の S.C.を入れることによって，V.A.効果をみるための一回完結型のマタニティークラスとしました。パイロットスタディーによって，データ収集のため調査票を渡す時期とクラスの内容を一回完結型に修正することができました。

S.C.（シェアリングサークル）について

V.P.では，言葉には人の心を動かす力があり，使い方によっては人の心を打ち砕くこともあれば，能力を引き出すことも出来るという考えがあります。そして，それは話し相手の心の癒しにもつながります。S.C.は人間の資質といわれている美徳の言葉を用いて，相手の長所を伝える，もしくは承認するというワークです。S.C.の実施プロセスを「図 2」に示しました。V.A.のマタニティークラスにおける時間的配分は，マタニティークラスの 90 分間開催される内，V.A.に関することは 45 分から 60 分間かけて実践しました。参加者は 2〜3 人のグループとなり各自 52 の Virtues（美徳） cards29） から 1 枚を引いて，それをじっくり読みます。このカードは，人間の資質を「52 の美徳の言葉」（表 1）で表現し，その実践方法が記載されています。日常生活の場面で使いやすくカード式になっています。1 枚のカードには 1 つの美徳について書かれ，その内容は“定義”“実践方法”“確言”が書かれています。次に参加者はカードに書かれていた内容と最近の出来事に関連づけて話します。グループ内では，受容，傾聴，共感の姿勢を持ちお互いの話を聴いたり，話したりすることができるような「場」となるように，境界線を引きます。すなわち，本研究で用いた美徳による境界線は，尊敬，礼儀，信頼，自己主張で，これを，参加者に説明する時には，「お互い尊敬の気持ちを持って接していただき，自分がされたいように相手にも思いやりを持って接してください。そして，ここで話した内容はここだけの場に限られたことなので口外はしないで下さい。それが信頼につながります。自分が話す番では自己を主張してください」，と伝えます。この境界線を設定することが心を開放し，安心して話す「場」となります。このようにして具体的にルールを設定しそれを守りながら，聴く姿勢，話す姿勢にもっていきます。次にカードの内容と最近の出来事を関連づけて自分のことを話し，傾聴している参加者は相手のもつ長所（美徳）を発見し，それを言葉で伝え，参加者のネームプレートに承認した言葉を書く，というプロセスで実施します。

なお，研究者は，マタニティークラスに Virtues Approach を取り入れるために Virtues

Project が規定している所定の研修を受け，公認ファシリテーターの資格を得ました。

倫理的配慮

本研究は所属する大学の倫理審査委員会の承認を得，次に I 県の産婦人科依頼施設長の署名による同意を得ました。マタニティークラスの参加者に対しては，受講前と後に研究目的と研究への参加は自由であり，また，途中で取りやめることができることを口頭と紙面で説明した上で，調査票を直接手渡しました。調査票の記入により同意が得られたものとしました。また調査に協力しなくても一切不利益を被ることが無いことを説明しました。

結果

対象者の属性と2群の比較可能性の検討

調査期間中に，介入群で母親 81 人，対照群で母親 72 人に調査票を配布し，このうち，有効回数は介入群 76 人で有効回答率は 94%(=76/81)，対照群は 64 人で有効回答率は 89%(=64/72)でした。2 群間の基本情報（対象者の属性）に差がないかを検討した結果を「表 2」に示しました。2 群間においていずれの属性の量的・質的変数にも有意な平均値の差はみられませんでした。

介入効果の分析

2 群の受講前後の 3 尺度の得点差の平均値の差の検定結果を「表 3」に示しました。介入群では自尊感情の尺度得点は受講後の得点の方が受講前よりも有意水準 5%で高くなりました。特性的自己効力感の尺度得点では受講後の得点の方が受講前よりも有意水準 1%で高くなりました。夫婦関係満足の尺度得点はクラス受講前後において有意差は認められませんでした。対照群では，3 つの尺度得点全てにおいて，クラス受講前後において有意差は認められませんでした。

考察

魂は思考の源泉であり，想像力・思考力・理解力・記憶力・モラル（美徳の選択）等の機能があり，人間は神の美を反映するように創造されました。しかしながら，現代社会では虐待や不適切な養育態度等が年々増加しており，その結果，不安定な IWM を形成した子どもが増加し，そのままで放置するならば，さらに悪循環するかのように不適切な養育態度は次世代に伝達されます。そして，不安定な IWM は人間の潜在的能力のベールとなり，本来の人間の資質を発揮することを妨げる状況をつくりだすと考えられます。

先行研究より，母親の育児困難や育児ストレスの関連要因として，夫婦関係，自尊感情，自己効力感が関係していることが分かってきました [30]。そして，子育て支援には次世代育成を視野に入れた早期の心理的サポートが重要であるという認識が高まっています [31]。しかし，妊娠中からの集団を対象とした心理的アプローチの実施具体策はまだ不透明です。そこで，本研究は心理的アプローチとして「V.A.を取り入れたマタニティークラス」を編成し，その効果を検証

することを目的としました。研究結果は， 介入群ではクラス受講前の特性的自己効力感，自尊感情の尺度得点が受講後には有意に増加しました。夫婦関係満足の尺度得点には有意な増加はみられませんでした。対照群では3つの尺度得点のいずれにおいても有意な増加はみられませんでした。これらの結果，介入群はクラス受講後の方が受講前よりも有意に尺度得点が上昇したことから，V.A.は自尊感情に影響をもたらしたと推測されます。自尊感情が上昇するということは人格形成に影響を及ぼしていると考えられます。現代の心理学の分野において，森口氏[32] は著書の中で，道徳や人間の資質と考えられる美徳が自尊心の枠組みの中にあり，それを実践し身につけていくことが人格形成につながっていくことを説明しています。また，Maslowの成長発達理論の第4番目の「承認の欲求」では，他者から本来の自己を尊敬され認められたいという人間の深層心理的な欲求が述べられています。V.A.の「相手の行った行為について美徳のことばで承認する」という実践行動が Maslow の「承認の欲求」[33] に当たると考えられます。S.C.を実施している中で，承認されることによって「今まであまりほめてもらったことがないです」「家事ばかりやっているけど，そうやって認められると嬉しいですね」と，涙ながらに語る経産婦もいました。母親は育児や家事を一生懸命やっていますが，そのことを誰かに知ってもらいたい，それを承認という形で認めてもらうことが非常に大切なことであり，そのことが次へのステップにつながることを実感しました。このように，育児をしている母親たちの相談を受ける場合には，まず，話を傾聴しその後に必ず今までの努力を美徳の言葉で認め，次に解決策を探っていくというプロセスは，母親たちの次にいくためのステップではないかと考えられました。そして，他の妊婦と話し合う時，お互いを尊重し信頼し合えるような境界線を設定することにより，自分のことを安心して話すことができ，お互いの共感を呼ぶことにつながったのではないかと思われます。一方，保健指導のみを受けた対照群の母親は，知識が得られてよかったという感想のみにとどまりました。研究結果から介入群では，クラス受講後に特性的自己効力感が有意に上昇したということは，V.A.の「美徳の視点から捉えて考える」ことや「承認，肯定される体験」が要因であったと考えます。つまり，現実を今までとは異なった（プラス思考）視点で捉えなおす機会と，自分が人間の資質を表現する言葉で承認されることが，特性的自己効力感を上昇させた要因となったのではないかと考えられます。また，現実に育児不安等で悩んでいる人に対し，自信，柔軟性，機転，やさしさ等といった美徳の考えで解決策を探していくアドバイスは相談の質にも変化をもたらすことができます。

子育てにおいては，夫婦関係が母親の育児態度に影響を及ぼすことから，母親の夫婦関係に関する考え方，認知の仕方に変化を及ぼすようなサポートが必要です。V.P はものごとの認知の仕方に影響を与えることによって，人間関係の捉え方にも変化を及ぼす要素があり，夫婦の関係も人間関係であることから，母親の夫婦関係の満足の認知のしかたの変化を測定しました。しかし，結果は介入の前より後の方がわずかに得点は上昇しましたが統計的には有意な差はありませんでした。

学級参加者による学級評価としては，参加者殆どが「実生活の中で美徳を取り入れたい」と答え，「妊婦のメンタルな面の知識を得て日常生活で使えそうな気がした」「現実の生活では美徳について忘れそうなので，実際育児をしている時にも学級をやってほしい」等の意見が聞かれました。

心理学者の J. Bowlby[34] の愛着理論のように，乳幼児期の育児のあり方がその後の人格

形成に非常に重大な影響をもたらすことがようやく解明されてきましたが，この理論の基本的なことは，養育者が適切な愛情を注がなければ子どもの人格に重大な欠落症状を示すということです。すなわち，「愛するということは美徳の実践」であり，養育者が育児において適切な「美徳の実践」を欠如させるならば，子どもは健全に成長できないということになります。

既にアブドル・バハは以下のように述べておられます。

> 女性の教育は男性の教育より、さらに必要かつ 重要である。なぜなら、女性は、子供の最初の教育者なのであるから。女性自身が欠点を持ち不完全であるなら、その子供も必然的に不完全となるであろう。つまり女性が不完全であると全人類が不完全な状態になるということである。なぜなら、子供を養育し、成長させるのは母親であるから…これは父親の役目ではな い。もし教育者が無能であれば、教育される者もそれに応じて能力を欠くであろう。これは明白で、議論の余地のないことである。教師が文盲、無知であれば、 生徒が才気にあふれ、教養豊かで有り得るはずがない。母親は人類の最初の教育者である。もし母親たちが不完全であるなら、人類の状態と未来は、あわれなる ものであろう。[35)]

また，アブドル・バハはこのようにも言っておられます。

> 母親は、子供たちの最初の教育者であり、子供 たちの内面に美徳を築き上げるのである。母親たちは、子供に美徳や立派な礼儀作法を身につけさせ、好ましくない性質にならないよう忠告し、困難なときにも 固い決意と不屈の精神と忍耐を失わぬよう励まし、進歩し前進するよう促す。このように女子教育に対する十分な配慮が必要である。これは非常に重要な課題で あり、精神行政会のもとで管理され、組織化されるべきである。[36)]

つまり，子どもは美徳に基づいた養育がなされなければ個人の人格形成の不完全のみならず，ひいては，不適切な養育態度は次世代へと伝達され，その子どもも必然的に不完全な親となり，その結果，人類の状態と未来は，あわれなるものになるとアブドル・バハは警告されています。すなわち，人格の不完全な人類が社会を形成することは社会の崩壊を意味しています。しかしながら，現代社会は不適切な養育態度や虐待が年々増加していますが，育児の重要性の理解の深さは少子化対策や物質的な支援にとどまり，「人類の繁栄の危機」という認識に欠けているのが現状です。

バハイのティーチング活動の目的はその地域の住民に自らの精神的，社会的，知的発展を自主的に推し進めるための能力を高めることにあります。そして，このプロセスを促進する種々の活動がなされています。しかし，50 年以上前守護者は，人々が宗教に対して非常に懐疑的で，宗教的な組織や運動を軽蔑の目で見ている事を指摘されました。人類の繁栄には宗教が必須であるという真理の中で，現代社会では育児困難・虐待・家庭崩壊が増加し，さらに宗教にアレルギー的反応や嫌悪感を抱く方が多いというのが現状です。このような環境下で，一般向けのマタニティークラスに Virtues Approach を取り入れることは，親となれる方の意識の中に

美徳の種をまくという意味でも意義のあることと考えられます。

研究の限界として，研究対象は，1つの医療施設から介入群と対照群を設定したことによって同じ集団から両群を抽出したので偏りは少なかったと考えられますが，1つの地域の1つの医療施設であることから外的妥当性は乏しいと考えられます。よって，本研究の結果を一般化するには今後異なる数箇所の場所で調査と縦断的調査をする必要性があります。また，介入前の特性的自己効力感の得点は対照群よりも，もともと特性的自己効力感が低いために，介入効果が表れやすかった可能性は否定できません。その他，介入群と対照群のそれぞれの実施時期（季節的な変動）が異なるこが得点の差に影響していることも考えられることから，今後，実施時期を統一することを検討する必要性があります。

結語

V.A.を取り入れたマタニティークラスは妊娠中の母親の自尊感情，特性的自己効力感を高める効果をもたらしました。自尊感情や特性的自己効力感を高めることは母親の育児困難や産後のうつ傾向を緩和する要因であることから，V.A.を取り入れたマタニティークラスは育児支援に貢献しうるものと考えられます。また，美徳による認知の修正方法は人間の潜在能力を呼び起こし，長期的に実践することにより，養育者，特に母親にとって育児の内容にポジィティブな影響を及ぼすのではないかと推測されました。

謝辞

本研究の実施に際し，ご協力頂いたお母様方，並びに石川県立看護大学の諸先生方に厚くお礼申し上げます。尚，本論文は日本母性衛生学会に投稿した論文[37]を一部修正加筆したものです。

引用文献

1) バハオラ（1998）「かくされたる言葉」. 日本バハイ全国精神行政会翻訳監修. バハイ出版局，1998，p.25
2) ヘンリー・ワイル(1998).「魂・心意・精神―自分を知るために」 コールドウェル本子訳. ベスト社.
3) 平成 20 年度社会福祉行政業務報告.「児童相談所における児童虐待相談対応件数」. <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/gyousei/08/kekka8.html>
4) 内山絢子、中谷謹子(2003).「児童虐待と現代の家族」. 信山社
5) J.ホームズ(1996) 「ボウルビィとアタッチメント理論」 黒田実朗訳. 岩崎学術出版
6) Main, M., & Kaplan, N. (1985) Security in infancy、 childhood and adulthood、 A move to the level of representation. *Child Development*, (50), 1-2.

7) 久保田まり(1997).「アタッチメントの研究、内的ワーキングモデルの形成と発達」.川島書店.
8) Pears, K. C., Capaldi, M. D. (2001). Intergenerational transmission of abuse、a two-generational prospective study of an at-risk sample. *Child abuse & Neglect,* (25),1439-1461.
9) Main, M., & Kaplan, N. (1985). Security in infancy, childhood and adulthood: A move to the level of representation. *Child Development,* (50), 1-2.
10) Kaufman, J., & Ziegler, E. (1987). Do abused children become abusive children? *Am J Orthopsychiatry,* (57), 686-696.
11) 浦山晶美. 母親の内的ワーキングモデルと虐待的な養育態度の関連性. 日本公衆衛生雑誌.2009、56、(4)、223-231.
12) 森田展彰(2003). 虐待に関わる要因と親に対する介入治療. 中谷謹子 編.「児童虐待と現代の家族」.信山社出版.
13) Allen, J.P., Hauser, S.T., & Barman, S.E. (1996). Attachment theory as a framework for understanding sequel of severs adolescent psychopathology、An 11year follow-up study. *Journal of Consulting & Clinical Psychology,* (64), 254-263.
14) Wark, M. J., Kruczek, T., & Boley, A. (2003). Emotional neglect and family structure: Impact on student functioning. *Child Abuse & Neglect, 27*(9), 1033-1043.
15) Romito, P., & Crima, M. (2003). Adult outcome in women who experienced parental violence during childhood. *Child Abuse & Neglect*, (27), 1127-1144.
16) Zeanah, C. H., & Scheeringa, M. (2004). Reactive attachment disorder in maltreatment toddlers. *Child Abuse & Neglect,* (28), 877-888.
17) 厚生労働省(推進協議会) (2006).「健やか親子 21」中間評価報告書.
18) 大西美代子 (2000). 成人愛着研究における発達臨床的意義.「思春期青年期精神医学」、10、97-114.
19) 中谷奈美子(2006). 母親の被害的認知が虐待的行為に及ぼす影響.「発達心理研究」、17、(2)、148ー158.
20) 渡邉タミコ(2001).父親の育児協力・夫婦の対話と母親の育児満足度との関係.「山梨医大紀要」、18、47-53.
21) 浦山晶美、金川克子(2001). 母親の身近な人間関係におけるストレス感と不適切な養育態度の関連性について.「石川看護雑誌」、6、11-17.
22) 川崎佳代子.育児感情・育児行動の実態及び関連する要因.母性衛生、 2000、41、(1)、158-169.
23) 大西美代子、長沼佐代子、生田憲正(2003).身体的虐待と思春期の精神病理.「精神科治療」、18、1189-1196.
24) Linda Kavelin Popov(2005).「『52 の美徳』教育プログラム」. 大内博翻訳、太陽出版、pp.13-30.

25) 加藤好治(2006). 美徳の時間:52 の美徳教育プログラムの実践が人格を形成する.「愛知県総合教育センター研究紀要」第 96 集、19－28.
26) 堀洋道監修、吉田冨二雄編.(2000)「心理測定尺度集 II」 .サイエンス社、149-152
27) 堀洋道監修、山本真理編(2001).「心理測定尺度集1」.サイエンス社、29-31.
28) 堀洋道監修、山本真理編(2001).「心理測定尺度集1」.サイエンス社、37-42
29) Linda Kavelin Popov(2005).「ヴァーチューズ・カード—52 の美徳のエッセンス」、大内博翻訳. 太陽出版.
30) 前掲書 19)，20)，21)
31) 厚生労働省(2004).「平成 15 年度版 厚生労働白書.家庭教育支援のための行政と子育て支援団体との連携の促進についての報告」.
32) 森口兼二(1993).「自尊心の構造」. 松籟社、17-56.
33) A.H.マズロー(2000).「人間性の心理学—モチベーションとパーソナリティ」. 小口忠彦翻訳.産業能率大学出版部、 31-54.
34) 前掲書4)
35) アブドル・バハ.「女性」(編纂書)に引用、<http://www.geocities.jp/oneworld_international/library/comp/women_j.htm>
36) 前掲書、 p.20.
37) 浦山晶美(2010). 心理的アプローチとして『美徳・教育プログラムの方法』(Virtues Approach)を取り入れた『マタニティークラス』の編成とその効果について.「母性衛生」、1、620-628.

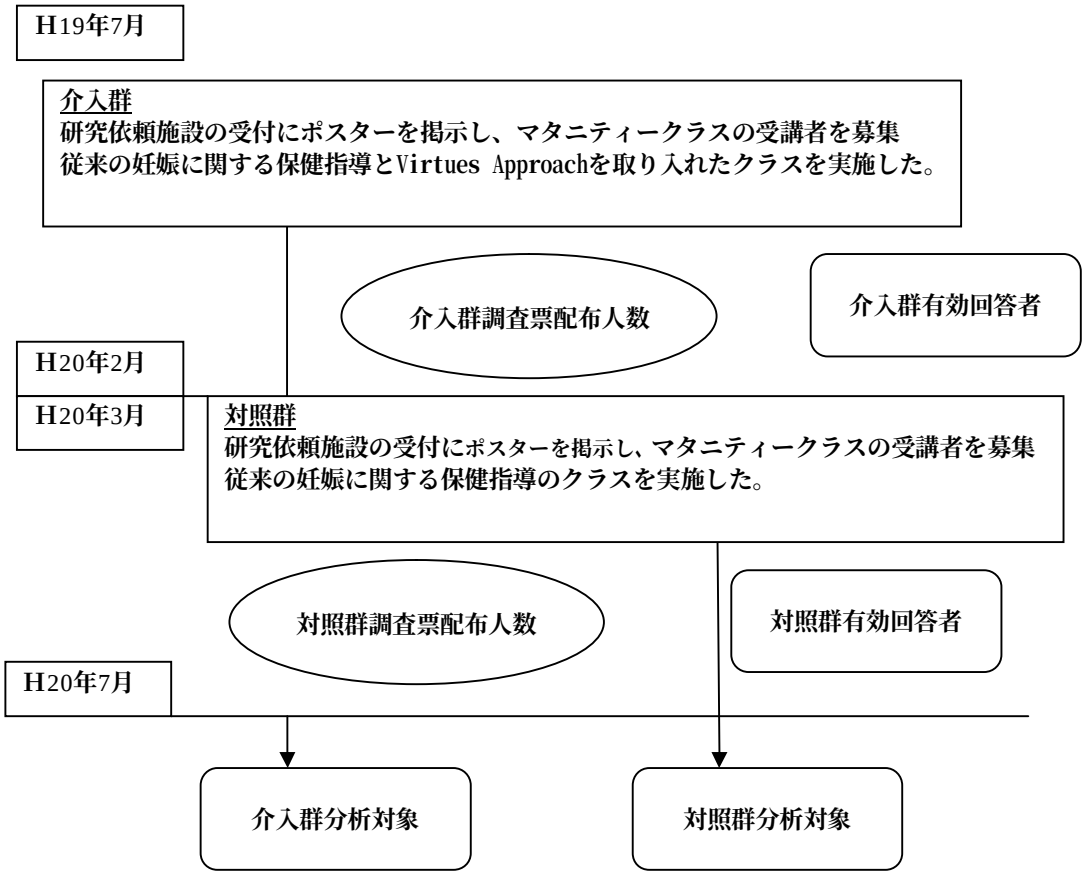

図 1 対象者の募集から介入終了までのフローチャート

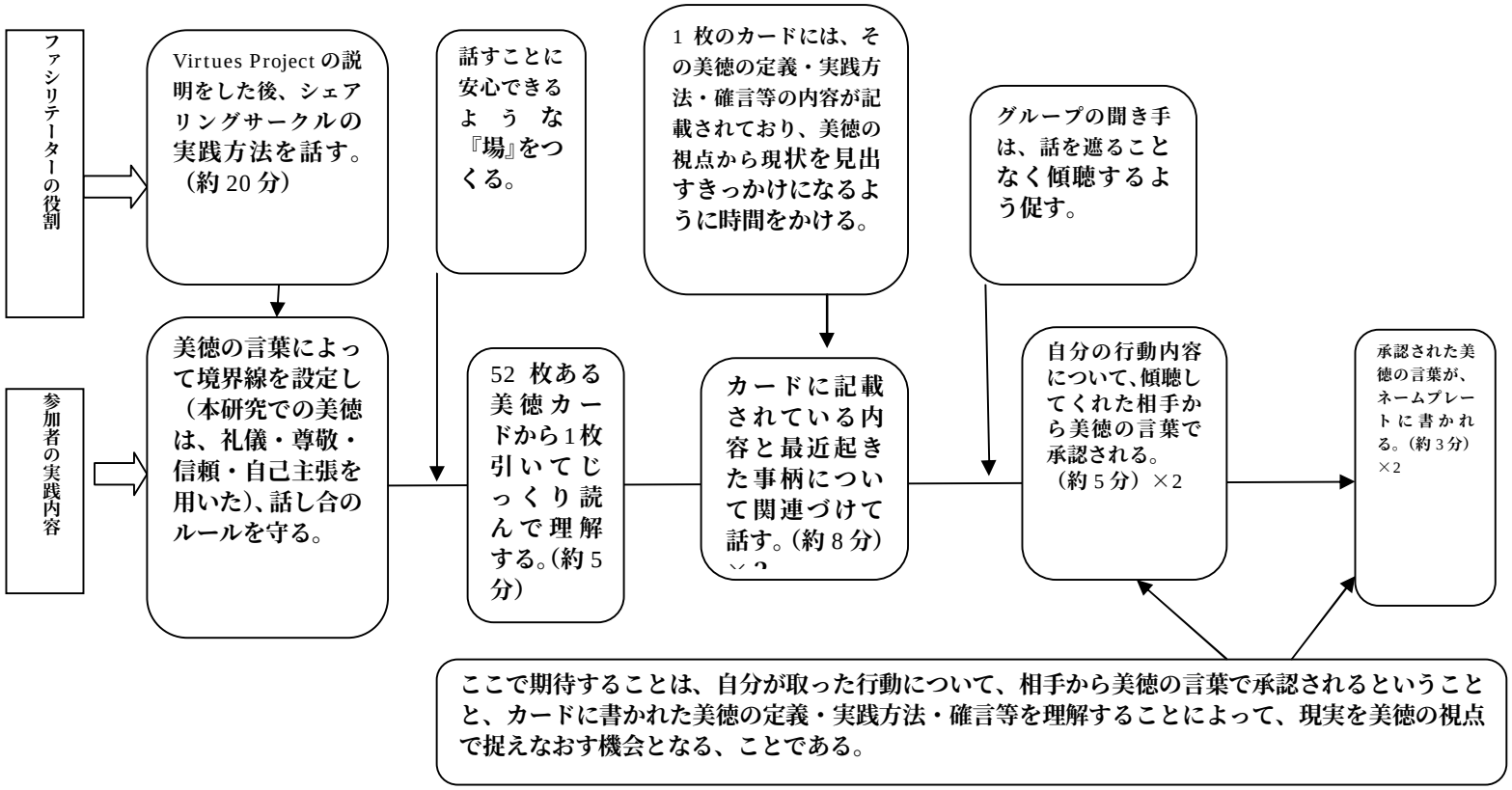

図 2　シェアリングサークルの実施プロセス

注釈：シェアリングサークルは、グループのメンバー間で、「場」を共有し「話す人」「聴く人」を交代して実施する。

表 1　52 の人間の資質を表わす言葉を virtues（美徳）として表現

注釈: 価値観は文化によって変わるがこれらの言葉は特定の宗教やイデオロギーに偏っておらず、これらは、人間の資質の要素である。（Linda Kavelin Popov[7] らが提唱した 52 の virtues）

愛	識別	誠実	名誉	共感	親切	忠誠心	ゆるし
いたわり	自制心	辛抱強さ	優しさ	協力	信頼	慎み	喜び
思いやり	自信	整理整頓	やすらぎ	勤勉	信頼性	手伝い	理解
感謝	柔軟性	責任	目的意識	決意	正義	忍耐	理想主義
寛大	正直	節度	勇気	謙虚	清潔	奉仕	和
寛容	情熱	創造性	友好	優秀	自己主張	無執着	礼儀
気転	真摯	尊敬			コミットメント		

表 2　属性（量的・質的変数）に関する介入群と対照群の平均値の差の検定

		介入群(n=76)	対照群(n=64)	p 値
年齢（歳）	平均値(SD)	29.9(4.3)	30.1(3.7)	n.s.
結婚後年数（年）	平均値(SD)	2.2(2.1)	2.7(2.4)	n.s
受講時の妊娠時期（週）	平均値(SD)	30(5.4)	29(6.5)	n.s.
仕事	無し(人・%)	50(65.8)	39(60.9)	n.s.
	有り(人・%)	26(34.2)	25(39.1)	
妊娠中の異常	ある(人・%)	8(10.7)	8(12.7)	n.s.
	ない(人・%)	67(89.3)	55(87.3)	
初経産	初産婦(人・%)	62(81.6)	51(79.7)	n.s.
	経産婦(人・%)	14(18.4)	13(20.3)	
産後	はい(人・%)	51(67.1)	53(82.8)	n.s.
実家に戻るかどうか	いいえ(人・%)	25(32.9)	11(17.2)	

注：n.s.= not significant

表 3　介入群と対照群それぞれのクラス受講前後における尺度得点の平均値の差の検定

		介入群 (n=76)		対照群 (n=64)	
		平均値 (SD)	p 値	平均値 (SD)	p 値
夫婦関係満足	前	21.7(2.4)	n.s	21.6(2.8)	n.s.
(6～24)	後	22.0(2.2)		21.7(2.8)	
自尊感情	前	25.4(4.9)	*	26.8(4.2)	n.s.
(10～40)	後	26.4(4.6)		27.3(4.2)	
特性的自己効力感	前	70.4(11.6)	**	74.1(9.8)	n.s.
(23～115)	後	73.4(12.8)		74.0(11.2)	

注：＊p＜0.05,　＊＊p＜0.01　n.s.: not significant

(尺度：夫婦関係満足・自尊感情・特性的自己効力感の尺度得点)